六川長三郎勝家と立科の水

立科土地改良区理事長　六川利一先生

実施日：令和４年６月２７日（月）

立科土地改良区理事長の六川利一先生を講師にお招きし、「六川長三郎勝家と蓼科の水」をテーマに、ご講義をいただいた。前半は六川家のルーツについて。もとは群馬の武士であった六川家が、山梨、長野と移り住み、帰農したという。そして六川長三郎勝家は６年の歳月と私財を投じて「塩沢堰」をひき、それにより「塩沢新田」「細谷新田」「観音寺新田」が開発されたという。また後半は、立科町の用水系統図やパンフレットを見ながら蓼科の堰や周辺の堰についても学んだ。水を守る先人たちの熱い思いが伝わってくるご講義だった。

【生徒の授業日誌より】

・水を引いてこないと田んぼが作れないときに、機械もないのに人力で水を引いてきたのはすごいと思った。

・立科に３つの川が流れていることを初めて知った。蓼科山で日本海側と太平洋側に分かれていることを初めて知った。昔はいろいろ制限されて田んぼを兄弟などで分けながらじゃないといけないということはすごく大変そうだと思った。

・立科の３つの土地に水を引くのはとても大変なのに、六川長三郎勝家さんは立科のみなさんのために自分のお金で何年も頑張ったのはすごいと思いました。借金をしてまでも川を作るのはすごいと思いました。蓼科山からここまで原水を探して、引いてこようと考えたのはすごいけど、大変というイメージが強くて、自分なら無理だと諦めてしまうかもです。

・蓼科山からいろんなところに水を引くのはすごく難しいことだと思うけど、昔の人が協力し合って水を引いてきてすごいなと思いました。改めて考えてみると、いつも当たり前に川や水道から水が使えることや、畑や田んぼが作れることに感謝しないといけないなと思いました。

・六川長三郎勝家の略年表を見ると、１６００年ごろに真田幸村の名前が書いてあってびっくりしました。長三郎勝家が５６歳からの６年で蓼科山から湧水を引いてきて水路を完成させて、その後もさまざまな水路や神殿の開発をしていたので、死後に神としてまつられるのも頷けるなと思いました。